

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401830
法人名	有限会社 エス・ワイ・シー
事業所名	グループホーム クベレ
所在地	〒854-0504 長崎県雲仙市小浜町金浜422-2 (電話)0957-74-9539

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,900 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(12月 31日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	65歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅医院・公立新小浜病院・萩尾歯科医院・口之津病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に面した国道沿いに建築されたグループホームクベレは、平成16年4月に建築士・福祉住環境コーディネーターであるホーム長が、保健師の家族による運営の助言も取り入れて自らデザイン・設計をし、開設された。テラスにはテーブルや花が置かれ、一見するとカフェのような玄関回りが明るく温もりのある生活空間へと誘っている。敷地内には畑があり、入居者と共に育てた作物が食卓を賑わせることも少なくない。畑へと続く通り道は高齢者の歩行や車イスを妨げないよう舗装されており、行動を制限しない工夫がある。リビングの大きな窓からは海が一望出来、天気によって景色が変わるその様子を興味深く眺められる入居者もおられる。ホーム内は廊下が長い為、歩行することでの生活リハビリ、また積極的な毎日の体操で利用者の身体機能の維持・向上を図っていることから、元気で食欲のあるはつらつとした利用者が多い明るいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題となった災害対策について、改善計画シートを作成し、職員で検討した内容を踏まえ、あらゆる事態を想定した避難訓練や救命法を修得するために、緊急マニュアルを作成、内容の共有を図り、消防立ち合いのもとで避難訓練を実施し、両隣の住民の協力もお願いしながら緊急時に備えている。また職員だけの訓練もほぼ月1回行い、緊急時に対する意識に繰り返し働きかけている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うにあたって、職員同士で話し合い、また、業務・行動を振り返って見直すことで、ケアの在り方について今は忘れてしまっていることを初心にかえて意識することができたと実感され、評価をすることで、気づき・反省へと繋げられるツールとして有意義な活用をされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2カ月に1回、家族・地域包括支援センター・民生委員を交えた運営推進会議を開催して、ホーム運営の報告をして意見を聴取する機会作りを努力されているが、家族・市職員らの継続的な参加が困難な状況である。ホームの向上を図る会議の運営に向け、構成メンバーを今一度見直し、建設的な意見や情報が聞ける地域の代表の追加を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や年1回の食事を兼ねた家族会で意見を募ったり傾聴の姿勢に努められているが、ホーム側の説明に個人的な質問がある以外は、ほぼホームにお任せするという事で、家族の意見があまり頂けていないのが現状である。家族会を家族の懇親と意見の聴取の機会と考え、例えば、家族のみでの会議やアンケート等、充実した会議を開催し、家族の満足度の把握に尽力される事を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会の理解と協力のもと、広報誌や敬老会のお弁当を頂いている。また近隣住民の訪問や、野菜・釣った魚などの差し入れをして頂き、ホームからも畑の作物のお返しをする等地域との馴染みの関係が出来ている。市民マラソンや高校駅伝等の地域行事にはホーム前を通過していく選手たちが応援する入居者たちに手を振ってくれたり、また応援時のトイレ貸し出しなどホームの機能も地域に還元し存在も明らかになっている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは皆様の信頼の為に努力します。」「私たちは皆様の笑顔の手助けをします。」との理念をスタッフ会議で意見を募り、全員で話し合っって作り上げ、実践に努力されているが、入居者がどう暮らしたいかを支援する理念ではなく、職員視点での介護目標となっている。		介護者として現在掲げている、入居者へ与える安心と信頼の上に支援していく目標と共に、地域のなかで自分らしく穏やかに暮らしていきたいという、入居者の目線での思いを反映した理念を立ち上げることで、より地域と共存し、本人に寄り添った支援へと繋げられることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム開設以降、職員で話し合い、意見を出し合っって、理念の見直しや変更を行っており、ホームの方向性と介護者としての意識を職員全員が共有して持ち、入居者の毎日の暮らしを支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の理解と協力のもと、広報誌や敬老会のお弁当を頂いている。また、近隣の親戚の方を訪問したり、近所の方からミカン、魚などの差し入れをして頂き、ホームからも畑の作物をお返ししたりしている。市民マラソンや高校駅伝等の地域行事には、ホーム前を通過していく選手たちが応援する入居者たちに手を振ってくれるなどホームの存在も広く明らかになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価について改善計画シートを作成、実施し、体制の整えを前向きになされている。自己評価項目についても、職員全員で話し合い、振り返って見直すことで、ケアの在り方について今は忘れてしまっていることを初心に帰って意識することができたと実感され、評価をすることで気付き、反省に繋げるツールとして有意義な活用をされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回、家族、地域包括支援センター、民生委員を交えた運営推進会議を行って、ホームからの報告をし意見を聴取する機会作りに努力されているが、家族、市職員らの継続的な参加が困難な為、ホームの運営に活かされるべき意見の吸い上げが十分にできない状況である。		運営推進会議は2ヶ月毎に取り組まれているが、構成メンバーの全員参加は難しいのが現状であり、例えば、建設的な意見や情報を収集できる、地域の代表を増員する事で、ホームの運営の向上に反映できることを考慮した人選をする事で、充実した会議の開催を期待したい。

グループホーム クベレ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一回、小浜町のケア会議に出席し、市の担当職員に相談をしている。また、介護について、一般向けにアドバイスを書いたクベレ新聞をスーパー、役場、社協に置かせていただき、ホームへの理解を深める努力をされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や支払い時にお伝えしたり、電話での報告もされている。また、月に一回発行するクベレ通信に行事や出来事のカラー写真を載せ、日々の暮らしぶりをお伝えし、ホームから家族へのお願い等も盛り込んだ内容で、家族にも「分かりやすく良い」との喜びの声を頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年に1回の食事会も兼ねての家族会に意見を募ったり聞き取りを行っているが、ホーム側の説明に個人的な質問がある以外は、ほぼホームにお任せするというので、家族の意見があまり頂けていないのが現状である。		家族会を意見聴取の最善の機会と捉え、会長を中心に家族のみでの意見交換会や家族アンケートを行うなどの取り組みに期待したい。開催前には便りを使って、実施時の話題を家族に促し、充実した家族会の開催が期待される。また、同時に家族の満足度調査を実施される事に期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は少なく、この1年は離職者がなく、入居者にとって顔なじみの慣れ親しんだ職員との生活となっている。また、職員交代がある時は、入居者にとって不安がないよう、出来る限りの配慮をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務内で外部研修に参加できる体制で、月1回のスタッフ会議には看護師参加で、勉強会を行っている。毎週木曜に看護師訪問がある為、医療に関しての不安や疑問を相談し、レクチャーをしてもらう等、常に介護業務の前進に努力されている。服薬の研修にも参加しマニュアル作成をして、確認を徹底することで安心した生活を支援されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が雲仙市グループホーム連絡協議会の役員であり、研修には参加しており、他ホームとは交流が多く、顔見知りである。また、他のグループホームからお茶会のお誘いがあると訪問し、運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院からの入居が多く、家族が見学をし入居に至っている。入居後は早く馴染めるよう歓迎会を開いて、他の入居者にも受け入れやすい環境づくりを配慮し、気持ち不安定にならないよう、常に見守り・声かけを行い、入居者の精神的な負担を軽減する支援を心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、人生の先輩として入居者から畑・干し柿の作り方やお寺参りの作法等のアドバイスをしてもらった場面がある。また入居者からの「ありがとう」という言葉を頂いた時には忙しい業務の中でも職員の気持ちが和らぎ、介護するだけでなく元気をもらえる存在となっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にその人が歩んでこられた生活歴を聴取・記録し、本人や家族の願い・意向を確認し、希望に沿った支援をされている。日常的にも、個々の入居者の声に耳を傾け、柔軟な対応をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月の職員会議や日々の記録やアセスメントにより、入居者の状況を把握し、医療面・ケア面・生活全般に亘るサービス内容であり、職員の日々の気付きが取り入れられている。作成後は家族の理解を得ている。しかし、介護計画の書式に、入居者と家族の意向の欄がなく、主訴に沿った計画かが不明確になっている。</p>		<p>介護計画の作成に当たり、入居者と家族の主訴は必要不可欠であり、計画書の書式に、入居者と家族の意向・長期目標の欄を設けられることが期待される。また、見直し期間はヶ月ではなく詳細な記述を期待したい。介護計画の共有に繋がる日々の個別記録の記入方法(例、サービス内容に番号を付け、実施状況を記録していく)の工夫が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月～6ヶ月を見直し期間として、入居者の状態変化で行っている。モニタリングは1年間を通して毎月チェックを行い、年間の入居者の変化が理解できる。また、急激な変化には早急に対応し、現状に即した計画を作成している。今後職員の意見・日々の記録を活用し、実施状況の把握をチェックするシステムの充実を行う予定である。</p>		

グループホーム クベレ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者からの要望で、誕生会では一人一人が主役になり、特別な気持ちで過ごしていただく為の場面として、同じ誕生日でも一緒にせず、それぞれの誕生日に手作りケーキでお祝いし、主役としてろうそくの火を吹き消す喜びを味わっていただいている。また、社協の温泉入浴・テレビ体操・外食等希望に沿った柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医と連携を密にとりながら受診を支援されている。必要時・緊急時には往診もしていただいている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では看取りの実績はないが、家族や本人の希望があれば、家族・医療機関との話し合いを密にし、理解・納得した上で医療行為がない部分で、出来る範囲での支援をする方針としている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は、ドアを開放しても全体が見えにくいよう、暖簾で目隠しをされており、排泄誘導や失禁時にも一人一人の気持ち・尊厳を無視した対応のないよう配慮されている。また接遇マナー研修も受講し、親しい仲にも年長者への失礼な言葉づかいのないよう職員全員が気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課としてリハビリに力を入れているので、大まかな一日の流れはあるものの、その人のペースでの決定を優先し、強制のない暮らしを支援している。		

グループホーム クベレ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はみなさん自力摂取が可能のため、食欲もあり、自分のペースで楽しみながら食事をされている。ホームの畑でとれた白菜や大根・小豆などが食卓にあがることもあり、とれたての旬のものを食べるという楽しみも感じられている。また苦手な食材は把握しており、調理法の工夫や、代替食などで配慮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の個々の状態を見ながら、交代で大体一日おきの入浴であるが、入浴の準備は毎日されていて、希望があれば毎日でも対応できるようになっている。また、月に一回社協の温泉の利用もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、縫物、掃除など、得意な方が見守りのなかで出来る範囲でされている。また、マラソン行事の際に庭先で応援しながらパーベキューをするなど活動的で楽しく張り合いのある暮らしを支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとにドライブや花見、温泉・買い物など、外に出かける機会作りを努力されている。入居者は近所の薬局での買い物が好きな為、買い物に行きたいと希望されることが多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみで入居者の行動は見守りで支援をされている。居室から毎日掃き出し窓を開け、塩をまかれる入居者が以前転倒してしまった事例を受けて、転落防止にラティスを利用した膝程度の高さの安全柵を取り付けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・台風等に対する緊急マニュアルを作成し、年2回消防署協力の下で、両隣の住人が参加して、夜間火災を想定した避難訓練を実施されている。また、敷地内の貯水タンクは風水害の停電時に対応可能で、カセットコンロ・発電機も備えている。		

グループホーム クベレ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態を見て、1汁2菜を基本に、活動的な日中のために、昼食をメインに、夕食を軽めに献立をたてている。管理栄養士の資格を持つ管理者が栄養のバランスに偏りがないようチェックし、水分は毎食後、入浴後、体操後にこまめに水分を補給していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	国道に面しているリビングの大きな窓からは自然光が入り、海が見渡せる。ホーム内には手作りの飾りやキルトがあり、入居者の暮らしを温かく包んでいる。入居者は皆が集まるそのリビングで、海を眺めたり、ソファで寛いだり、音楽を聴きながら体操をしたり、テレビを見たり、自分のペースでの時間を過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の思い出の品の木彫りの置物や、人形、テレビやベッド等、馴染みのものを持ち込まれ、入居者にとって安心して居心地良く暮らすための工夫がなされている。		